歴史資産としての建築と景観の発見と活用

関連するSDGsの国際目標

環境科学部　環境建築デザイン学科
講師　　髙屋　麻里子
研究分野　：日本建築史、都市史

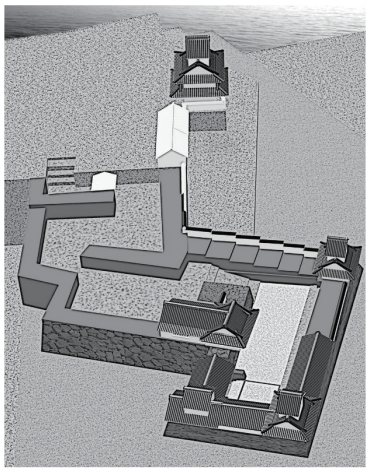
概要：地域の歴史的資産のなかには、存在が知られていながらも建物などが現存していないがために活用が十分とはいえない事例も多くあります。現存していない建築や景観を建築史や都市史の研究に基づいて復元し、3D-CGなどを用いて当時の様子を視覚化しています。地域の歴史的な評価や、新たな観光資源へとつながるかもしれません。

■発掘調査成果からの復元。

・最新の考古学的発掘調査成果をもとに、さまざまな分野の研究成果をふまえて、具体的な建築や景観を視覚的に表現することを試みています。

・これまでに、原城本丸周辺の復元イメージ3D-CGの作成（2008）や、史跡岐阜城山麓居館の復元3D-CGとVRの監修（2017）などに関わってきました。これらの史跡は、世界遺産や日本遺産などとしても、広く社会全体の歴史資産として整備されています。

・古代の集落や建築なども、研究対象としています。地域により、非常に多様であることが知られています。当時の環境を生かした景観が形成されていたようです。



CGでみる多門櫓と石垣（『原城と島原の乱　有馬の城・外交・祈り』新人物往来社、2008）

■文献史料からの復元。

・江戸大名屋敷などの建設に関わる記録から、現存しない建築を復元できる事例もあります。江戸大名屋敷は江戸の都市を理解するうえでも重要ですが、各大名の国元である全国各地の江戸時代の建築とも密接に関わります。

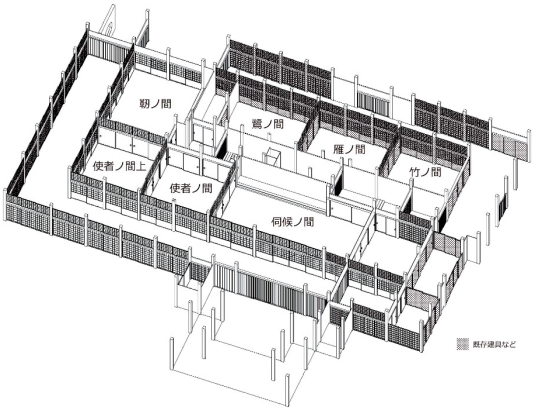
・地域に伝わる文献史料からも、記録された時代の都市や建築の様子を知る手がかりが多く得られます。

■絵画史料や絵図からの復元。

・江戸大名屋敷などの建設に関わる記録から、現存しない建築を復元できる事例もあります。江戸大名屋敷は江戸の都市を理解するうえでも重要ですが、各大名の国元である全国各地の江戸時代の建築とも密接に関わります。

・地域に伝わる文献史料からも、記録された時代の都市や建築の様子を知る手がかりが多く得られます。

・絵図や絵画史料などからも、現在とは異なる地域の賑わいや、現存しない景観を知ることができます。



寛延作事記録に基づく萩藩江戸上屋敷式台周辺建具模式図（山口県文書館所蔵毛利家文庫8館邸-11「江戸上御屋敷普請記録」挿入図より）（『大名江戸屋敷の建設と近世社会』中央公論美術出版、2013）

科学研究費（基盤研究A）「大火からの復興を通してみた近代の町並みの再評価」（2020-2023）研究分担者